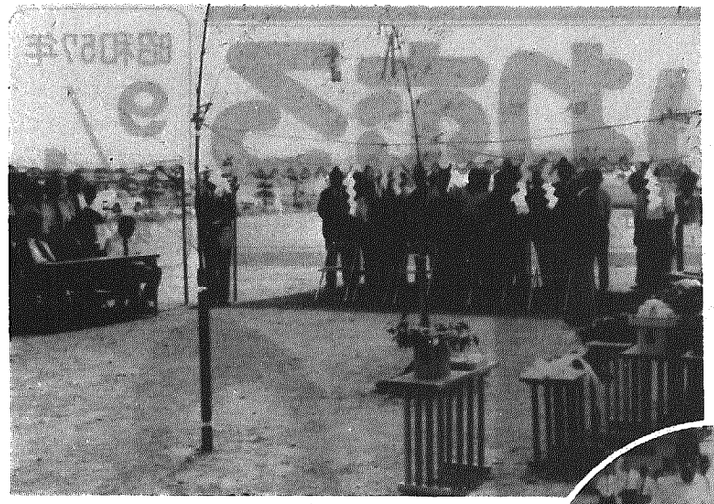
親しまれる

役場庁舎建築工事起工式



８月９日，役場庁舎の建設工事起工式が役場，設計，工事関係者及び多数の来賓出席のもとで現地で行われました。

神事については村長，工事関係者によって「くわ入れ」を行い工事の安全と早期完成を祈りました。

施設の概要については，すでに８月号でお知らせしましたので入札の結果についてお知らせいたします。

設計は，田中武建築設計事務所で，本体工事，水倉組・清水建設建設共同企業体，５億２千万円。電気設備工事，東北電気工事株式会社，９千万円。空気調和設備工事，研冷工業株式会社，８千万円。給排水衛生ガス設備工事，株式会社北設備工業，２千万円。合併処理，関口工業株式会社，1,390万円でそれぞれ請負，来年の７月には立派な新庁舎が完成することになりました。

▲地鎮祭でかりばらいをする金子村長

お年寄りの生きがいを考える

9月15日は敬老の日

現在，わが国のお年寄り（六十五歳以上）は一千万人を超え，総人口の約九％を占めています。

この割合は今後ますます増えるものとみられ，三十三年後の昭和九十年には二〇％を超えると予想されています。

五人に一人がお年寄り――高齢者問題は今や国民全体の課題であると言えます。

九月十五日は「敬老の日」また，この日から一週間は「老人福祉週間」です。

人生に定年なし――この機会に老人の生きがいとは，よき老後とはについて考えてみましょう。

人生に定年なし

「思いやり」が生きがいを奪うことも

――ある家庭での話です。

「畑仕事を続けたい。ツルがもう一メートルも伸びた。いま手入れをしないと，いいカボチャができない」

おじいさんは，畑仕事が唯一の楽しみでした。近くの農家から借りた，狭いながらも〝自分の畑〟に通い，四季折々の野菜づくりにいそしむことに日々の喜びを感じていました。娘夫婦と三人の孫にいつも新鮮な野菜を食べさせたい――これがおじいさんのなによりの生きがいだったのです。

ところが，ある日，娘さんから「少しは体のことも考えてください」と，野菜づくりを禁じられてしまいました。

娘さんにしてみれば，おじいさんが，畑仕事には直接ひびかないものの軽い腰痛を訴え，それに下痢ぎみだったことから，しばらくのんびりしてもらおうと考えてのことでした。

この日以来，おじいさんは部屋に引きこもりがちになり，その上，悪いことに生来の持病まで再発してしまったそうです。

――これは極端な例かもしれませんが，この話には，わたしたちが高齢者問題を考える上での貴重な教訓が含まれています。「お年寄りに対する思いやり」が逆に「生きがいを奪う」結果を招く場合が往々にしてあるということです。

総理府が行った「高齢化問題に関する世論調査」（昭和五十五年十月）によると，『老後はどのようなことを境に始まるか』に対する主な回答は，次のようになっています。

体の自由がきかない時	30％
仕事をやめた時	23％
年金をもらう時	21％

これを男性だけについてみますと「仕事をやめた時」が三八％でトップを占め，一般に言われる〝定年後グッとふけこむ〟ということが，なるほどうなずけます。つまり「意欲を失う」ことが老化を早めているといっていいでしょう。

お年寄りの生きがいを考えるとき，わたしたちが心したいのは「積極的に生きようとする意欲を奪ってはならない」――これが基本です。

人生には定年がないのですから。

▲家族団らんで〝生きがい〟について考えましょう

よき老後とは

医・職プラス生きがいが不可欠

よき老後とは――。

「まずは健康で，暮らしに困らなくて，グチを言わなくてすむ生きがいのある生活が送れること」と，だれもが口をそろえます。

衣・食・住だけでなく，医・職それにプラス生きがいが保証された暮らしこそ，よき老後ということになります。経済面での安定と丈夫な体そして生きがい――お年寄りが自立するためには，この三つが不可欠といえるでしょう。

総理府統計局の「老年人口の現況」（昭和五十五年）によりますと，六十五歳以上のお年寄りが〝職に就きたい〟と思う理由としてあげているのは，次のようなものです。

生活をより豊かにしたい	29％
生活費を得たい	17％
余暇ができた	14％
知識や技能を生かしたい	8％

こうした回答からもわかるように，職を求めることによって日々の生活を充実させ，これまで身につけた知識や技術を社会に役立てたいという積極的な意欲がうかがえます。

熟年――「老いる」のではなく「熟す」。この言葉が，お年寄りの心境を端的に物語っていると言えないでしょうか。

敬老会

みんなそろって
元気な顔でご出席ください。

今年も70歳以上の皆さんをお招きして，次のとおり敬老会を行います。これは永年社会のためにつくされた方がたを敬愛し，長寿を祝福して楽しい１日を過ごしていただくものです。

△と　き……９月26日（日）

△ところ……村民体育館

祝 長寿　一世紀を生きる…

お二人合わせて203歳

▲ひ孫を抱いてご満悦の相沢さん

相沢トセさん（和納六区）は七月二十五日満一〇三歳の誕生日を迎えられました。

目と耳が少々悪くなられたそうですが，しゃべり言葉ははっきりしており，気分の良い時は盆おどり唄や佐渡おけさなど歌っています。毎朝のお茶と三度三度決まった時間の食事が日課で，特に食事の時間についてはきちょう面で少しでも遅くなると実子のヨシさんにさいそくするそうです。

田中太作さん（石瀬）も八月二日満一〇〇歳の誕生日を迎えられました。白寿の祝いまでは元気に歩いていたそうですが，家族が〝ころぶと危い〟と心配してからは，はうようにしたそうです。一〇〇歳といっても，まだまだ目も耳も良くたまに小説を読んでいます。お二人の長寿の秘訣は，何んでもよく食べ，すきらいがないことだそうです。

ますます，お元気で。

▲食事もご自分でなされる田中さんとても〝100歳〟には見えません